

2012年3月14日～16日

第3回 国際自動車素材・加工展に出展しました。



マグネシウム合金の弱点であった耐腐食性や耐熱性などを向上させた新マグネシウム合金「JDMシリーズ」を用いた製品を展示させていただきました。その他に、従来より更に進化を遂げたアルミ合金の紹介などもあわせ、見て・触れて・体感していただける機会として、多くの方々にご覧いただきましたこと、心より御礼申し上げます。



出展者セミナー

3月14日（会期初日）は、上海交通大学教授 丁文江氏【NERC-LAF：センター長】をお招きしセミナーを開催いたしました。

マグネシウム合金を中心に、軽合金の現状を学術的見地から解説。未来を切り開く新マグネシウム合金の特性や可能性についてもお話していただきました。

展示物紹介

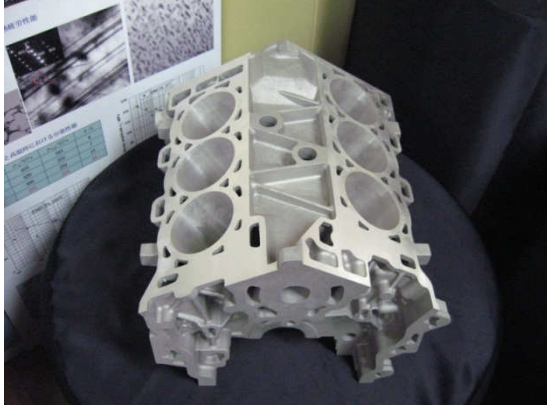


V6エンジン ・ 直4エンジン

エンジン回りの軽量化策として、アルミエンジンは既に常識といえるものです。
アルミよりも軽く、熱に強い その様な金属があれば・・・
誰しもが夢見た、夢の金属が登場しました。

スポーツ志向での軽さばかりでなく、低燃費を求める現代に

あらゆる可能性にチャレンジします。



Mg製 シリンダーヘッド

オールMgエンジンと呼ばれるには、エンジンブロックと
シリンダーヘッドが共にMg製でなければなりません。

熱に強い「JDMシリーズ」だからこそ目指せる世界があります。



マグホイール

18 inch ・ 14 inch 鋳造ワンピース

縁石・小石はね・段差・海辺・・・etc

マグホイール装着経験者の誰もが、操作性向上の引き換えとして
厳しい使用条件にいつも神経を擦り減らしていました。
新合金製「マグメタルホイール」は軽さを追求するために犠牲としてきた
あらゆるリスクを軽減
純正アルミホイール同様の取り扱いを許容する

夢のマグホイールです。



自動車(灯火類)向け LEDの普及にマグネシウム合金 は欠かせません!

LEDは自動車分野でも利用が進んでいますが、ヒートシンクの素材としてマグネシウム合金が大変注目されています。強制空冷を避けたい場合には、素材そのものが持つ放熱性が重要となります。放熱性が高いMg合金を利用し、複雑な形状を量産するダイカスト製法で作りたい・・・誰もが考え、希望する分野です。



自動車(灯火類)向け

LEDの普及にマグネシウム合金は欠かせません

LEDは自動車分野でも利用が進んでいますが、ヒートシンクの素材としてマグネシウム合金が大変注目されています。強制空冷を避けたい場合には、素材そのものが持つ放熱性も重要となります。放熱性が高いMg合金を利用し、複雑な形状を量産するダイカスト製法で作りたい・・・誰もが考え、希望する分野です。

熱処理・自由な曲げ加工が可能

軽合金「アルミ合金」「マグネシウム合金」に関し、素材から加工工程まで長年研究開発に取り組んできた上海交通大学:軽合金精密成型国家工程研究センター[NERC-LAF]が開発した熱処理を可能とするダイカスト法(アルミ・マグネシウム)は、ますますコスト競争が厳しくなる現代に画期的な工法として耳目を集めています。

また、最大の魅力である「軽さ」はそのままに、「ねばり」を持たせました。押出材「パイプ・異形」にも対応する「JDMシリーズ」は排気系統の軽量化も視野に入れ、徹底的な軽量化を目指す開発担当者様の夢を広げます。

アルミ合金にも粘りが求められています

アルミダイカストによるパーツにも粘りが求められています。

使用中にいきなり破断することにより、大きな事故を招きかねない自動車用パーツには、素材そのものに粘りを求める場面があります。マグネシウムばかりでなく、アルミ合金分野に於いてもお客様のニーズにお応えしてまいります。



LAF JAPAN